

平成29年度「高度専門職業人養成機能強化促進委託事業」  
調査研究テーマ：  
経営系専門職大学院(MOT分野)におけるコアカリキュラムの  
実証・改善に関する調査研究

## 事業計画

---

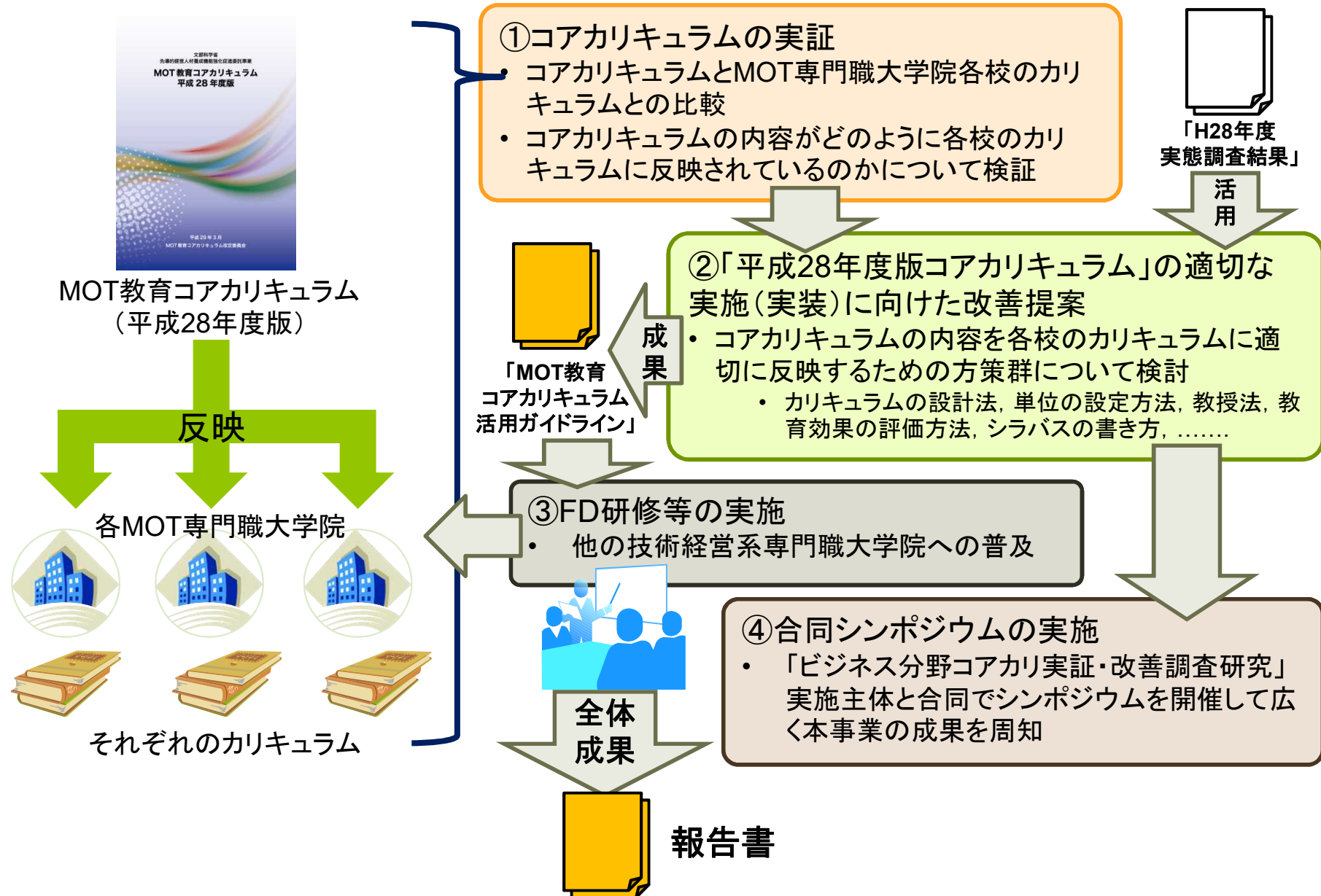


山口大学

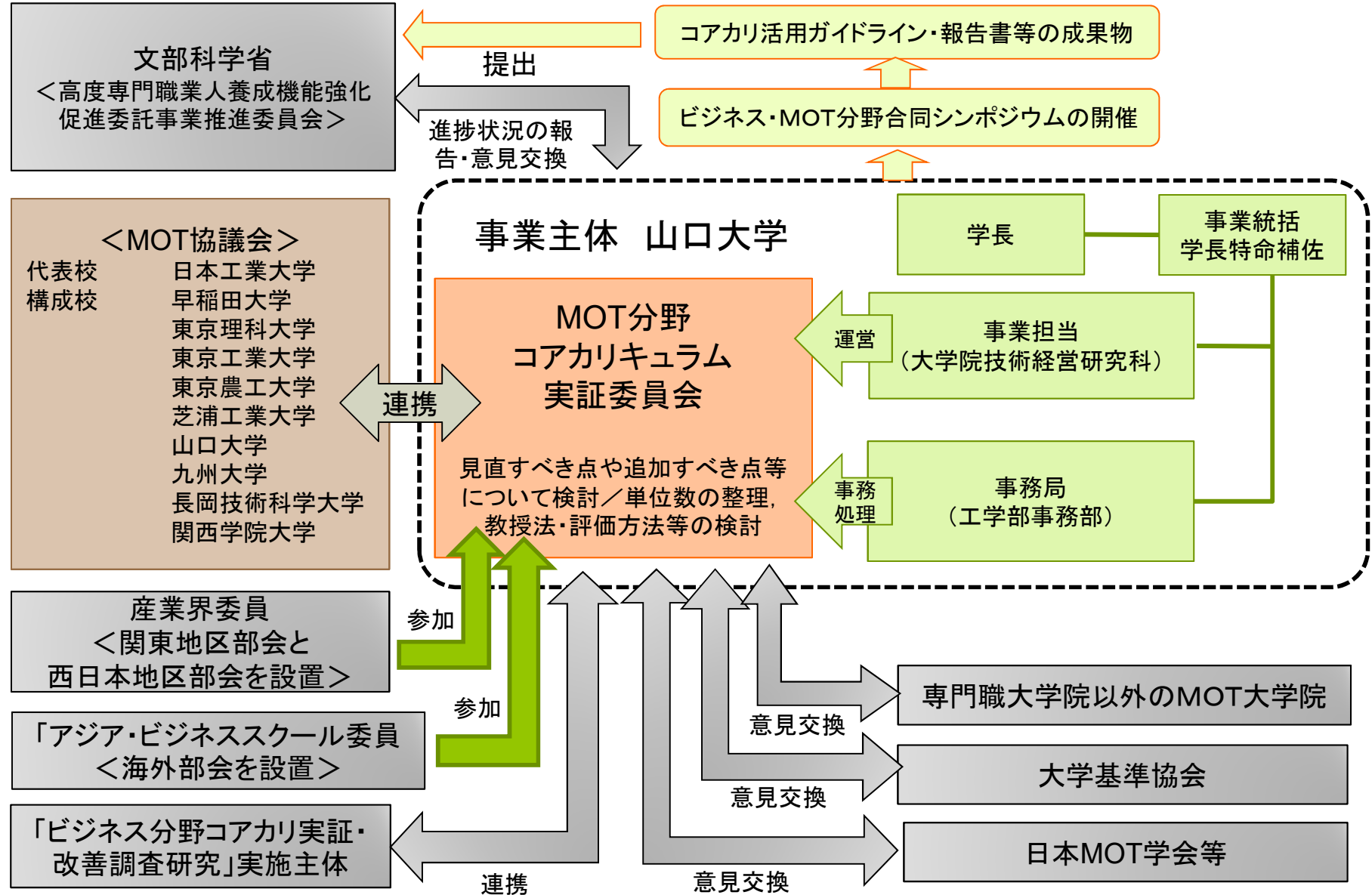
平成29年12月11日

高度専門職業人養成機能強化促進委託事業  
＜中間報告会＞

# 本調査研究活動の概要



# MOTコアカリキュラム実証事業の実施体制



# 事業計画

年月	事業の内容
2017年 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ MOT分野コアカリキュラム実証委員会設置 <b>済</b></li> <li>➤ 平成28年度実態調査結果等を踏まえた改善の検討開始 <b>済</b></li> <li>➤ MOT協議会において事業内容の説明と協力依頼 <b>済</b></li> </ul>
2017年 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アジア・ビジネススクール委員への就任依頼(海外部会設置)と意見交換開始 <b>済</b></li> <li>➤ 関連学会等との連携体制構築 <b>済</b></li> <li>➤ MOT専門職大学院を対象としたコアカリのカバー状況の調査開始 <b>済</b></li> </ul>
2017年 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 文部科学省「高度専門職業人養成機能強化促進委託事業推進委員会」との意見交換(キックオフミーティング) <b>済</b></li> <li>➤ コアカリのカバー状況の調査終了 <b>済</b></li> </ul>
2017年 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「ビジネス分野コアカリ実証・改善調査研究」実施主体との協議 <b>済</b></li> <li>➤ 産業界委員への就任依頼(関東地区部会と西日本地区部会の設置) <b>済</b></li> </ul>
2017年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第一回 MOT分野コアカリキュラム実証委員会(関東地区部会) <b>済</b></li> <li>➤ 専門職大学院以外のMOT大学院との意見交換</li> </ul>
2017年11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第二回 MOT分野コアカリキュラム実証委員会(海外部会) <b>済</b></li> </ul>
2017年12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第三回 MOT分野コアカリキュラム実証委員会(西日本地区部会) <b>済</b></li> </ul>
2018年 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第四回 MOT分野コアカリキュラム実証委員会(報告書案検討, 関東地区部会)</li> <li>➤ 第五回 MOT分野コアカリキュラム実証委員会(「コアカリキュラム活用ガイドライン」パンフレット(日本語版)完成, 関東地区部会)</li> </ul>
2018年 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コアカリキュラムの導入・普及策としてのFD研修会実施</li> <li>➤ 合同シンポジウム開催</li> <li>➤ 報告書, 「コアカリキュラム活用ガイドライン」パンフレット(英語版), 広報用ホームページの完成</li> </ul>

1/17~19で  
調整中

## ① コアカリキュラムの実証 | カバー率

- コアカリキュラムの内容がどのように各校のカリキュラムに反映されているのかについて検証(別添資料【MOT-D】参照)

学習項目のカバー状況

	A校	B校	C校	D校	E校	F校
コアカリ中項目 カバー率※	100%	100%	100%	100%	100%	100%
コアカリ中項目 重点的カバー率 ※※	100%	98%	94%	90%	76%	100%

※「コアカリ中項目カバー率」：創造領域を除くコアカリキュラム中項目49項目のうち、いずれかの授業科目において(重みはともかく/○か◎かはともかく)取り上げられている中項目の割合を示す指標

※※「コアカリ中項目重点的カバー率」：コアカリキュラム中項目49項目のうち、いずれかの授業科目において90分以上を割いて取り上げられている中項目の割合を示す指標

大学ごとに特徴

回答を得たすべての大学院においてコアカリの中項目は100%カバーされている

# ① コアカリキュラムの実証 | 共通項目

	重点的に取り上げている中項目トップ3※	
A校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業戦略</li> <li>● 競争戦略</li> <li>● <u>技術の概念</u></li> <li>● <u>企業や事業の目的とその達成のための技術戦略</u></li> </ul>	技術に対する意識
B校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 組織のデザインとマネジメント</li> <li>● 企業行動</li> <li>● <u>市場機会の発見と分析</u></li> <li>● <u>研究開発の役割と活動</u></li> </ul>	マーケットに対する意識
C校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術の概念</li> <li>● 数理・統計学的アプローチ</li> <li>● <u>市場機会の発見と分析</u></li> </ul>	研究開発に対する意識
D校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業戦略</li> <li>● <u>市場機会の発見と分析</u></li> <li>● <u>研究・開発(R&amp;D)マネジメント</u></li> </ul>	※ 技術経営教育において特に重視される項目(複数校で重視されている)
E校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>研究と開発の役割と活動</u></li> <li>● <u>企業や事業の目的とその達成のための技術戦略</u></li> <li>● 技術獲得アプローチ</li> <li>● <u>研究・開発(R&amp;D)マネジメント</u></li> </ul>	
F校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営理念</li> </ul>	



## ② 「コアカリキュラム」の適切な実施に向けた改善提案 | 海外部会



2017年11月17日チェンマイ大学にてアジア・ビジネススクール委員による「海外部会」実施

ACC-BA-CMU(チェンマイ大学), MJIIT-UTM(マレーシア工科大学), UiTM(マラ工科大学), SBM-ITB(バンドン工科大学), ダナン工科大学等からの意見

### コアカリキュラム自体に対して

- 今回制定されたコアカリキュラムはアジア各国においても適切なものである
  - ただし、タイから見ると起業家精神などはもう少し強化されても良い(今後の課題)

### コアカリキュラムの実施に対して

- アジア各国ではMOTの概論的理解やIPマネジメントの教育に対して適切な教育を実施しにくい現状である(別添資料【MOT-A】参照)
  - 日本の大学とのコース/コードシェアリングなどを模索したい

## (1) コアカリキュラム実証・改善作業における留意点とアクション

### ①ステークホルダーの参画



産業界からの意見聴取のため、「産業界委員」を「MOT分野コアカリキュラム実証委員会」の「関東地区部会」または「西日本地区部会」に招聘する。

MOT教育に強い関心を寄せるアジアのビジネススクールの代表者を「MOT分野コアカリキュラム実証委員会」の「海外部会」に招聘し、国際的通用性の観点から意見交換する。

### ②事前作業

文部科学省「高度専門職業人養成機能強化促進委託事業推進委員会」のキックオフミーティングの開催が8月中旬なので、その前に、当初の事業計画に沿って作業を進める。キックオフミーティングで実施体制、作業内容、日程等について意見交換を行い、必要があれば計画を修正する。

### ③関連実施主体との連携

「ビジネス分野コアカリ実証・改善調査研究」実施主体との連携体制を構築し、コアカリキュラムの独自部分、共通部分を明らかにする。

共通部分については特に連携して相互の教育資源の利用が可能となる方策を検討する。

### ④実態調査の結果活用



平成28年度「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」(調査研究テーマ:国内外の経営系大学院及び修了生の実態並びに産業界の経営系大学院に対するニーズ等に関する調査)で得られた調査結果を踏まえ、コアカリキュラムで定めた学習項目を実際の教育の中で効果的に教授する方法等について検討する。

### ⑤関連機関からの意見聴取

MOT協議会メンバー校以外の経営系専門職大学院や専門職大学院以外のMOT大学院に対しても個別ヒアリング、合同シンポジウムへの参加依頼等、意見を聴取する機会を設ける。

### ⑥参考1「コアカリキュラムの実証・改善に向けて…」への対応

別表に具体的アクションを示す。



## (2)合同シンポジウムの開催, (3)広報活動, (4)進捗管理について

### (2) ビジネス・MOT分野の合同シンポジウムの開催

本事業および隣接分野である「ビジネス分野コアカリ実証・改善調査研究」の進捗および成果を文部科学省「高度専門職業人養成機能強化促進委託事業推進委員会」ならびに社会に対して公表するための合同シンポジウムを開催する。

#### 開催案

東京シンポジウム	平成30年3月 3日(土)	キャンパスイノベーションセンター(田町)	国際会議室
山口シンポジウム	平成30年3月17日(土)	山口大学常盤キャンパス(宇部)	D講義棟

### (3) 広報活動 (社会の理解度向上)

「コアカリキュラム活用ガイドライン」パンフレット(日本語版および英語版)を作製し, 昨年度作成した「平成28年度版コアカリキュラム」パンフレットとともに国内外の企業・機関・大学に配布する。

本活動の広報を目的としたウェブページを通じて広く情報発信し, MOT教育に対する社会の理解度向上, MOT教育の社会への浸透を図る。

### (4) その他 (進捗管理)

適時, 文部科学省に進捗状況を報告するほか, 作業方針・方法等について必要に応じて協議する。



## 参考1 「コアカリキュラムの実証・改善に向けて主に見直すべき点や検討すべき点等について」への対応

見直すべき点・検討すべき点等	具体的アクション
<p>(1)平成28年度「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」において策定されたコアカリキュラムを各大学に導入・浸透させる方策</p>	<p>カリキュラムの設計法, 単位の設定方法, 教授法, 教育効果の評価方法, シラバスの書き方等, コアカリキュラムの内容を各校のカリキュラムに適切に反映するための方策群について検討を行い, 「平成28年度版コアカリキュラム」の適切な実施(実装)のための「コアカリキュラム活用ガイドライン」をまとめる。 このガイドラインを用いたFD研修教材を開発し, 複数のMOT専門職大学院向けに実施することにより, コアカリキュラムの導入・浸透を図る。</p>
<p>(2)平成28年度「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」において実施した, 実態調査の結果や企業等からの評価を踏まえて, 再度策定したコアカリキュラムが適切なものであるかの確認</p>	<p>平成28年度に実施された実態調査の結果を活用するとともに, 「MOT分野コアカリキュラム実証委員会」の産業界委員や関連機関・海外大学等のステークホルダーから, 「平成28年度版コアカリキュラム」自体やその実施(実装)に関して意見や評価を聴取し, 見直すべき点や追加すべき点等について検討する。</p>
<p>(3)平成28年度「先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」において策定された, ビジネス分野におけるコアカリキュラムとMOT分野におけるコアカリキュラムとの整合性(特に共通の領域における教育内容や教育の質と量についての検証)</p>	<p>「ビジネス分野コアカリ実証・改善調査研究」実施主体との連携体制を構築し, MOT分野とビジネス分野のコアカリキュラムの比較検討を行い, それぞれのコアカリキュラムの独自部分, 共通部分を明らかにする。 共通部分についてはより詳しく, 教育内容の整合性や教育の質・量について検討し, さらに相互の教育資源の利用が可能となる方策を検討する。</p>
<p>(4)各経営系専門職大学院におけるコアカリキュラムのカバー状況の整理</p>	<p>MOT専門職大学院各校のカリキュラムとの比較を行い, コアカリキュラムの内容がどのように各校のカリキュラムに反映されているのかについて整理を行う。</p>

## 参考1 「コアカリキュラムの実証・改善に向けて主に見直すべき点や検討すべき点等について」への対応（続）

見直すべき点・検討すべき点等	具体的アクション
(5) 学生の職業経験や勤務状況の違いを踏まえた適切な単位数についての整理	平成28年度に実施された実態調査結果のうち、「国内外の経営系大学院修了生の実態」に関する情報を踏まえ、また、学生の履修実態に関してMOT協議会加盟校からの情報提供を受けた上で、適切な単位数についての目安を提案する。
(6) 策定したコアカリキュラムの到達目標について、国際的通用性があるものとなっているかの検証	アジア諸国のビジネススクールのうちMOT教育に強い関心を寄せる大学、例えばアジアMOTコンソーシアム(Asia MOT Consortium)会員校であるバンドン工科大学やチェンマイ大学の代表者を「アジア・ビジネススクール委員」として「MOT分野コアカリキュラム実証委員会」の「海外部会」に招聘し、国際的通用性の観点からの意見を聴取する。
(7) 策定されたコアカリキュラムの到達目標をどのようにシラバスに反映されるのかモデルを例示  (8) コアカリキュラムの到達目標を効果的に教授するための教育手法、評価方法の例示	カリキュラムの設計法、単位の設定方法、教授法、教育効果の評価方法、シラバスの書き方等、コアカリキュラムの内容を各校のカリキュラムに適切に反映するための方策群について検討を行い、MOT教育コアカリキュラムの適切な実施(実装)のための「コアカリキュラム活用ガイドライン」をまとめる。 この際、山口大学大学院技術経営研究科のほか、複数のMOT専門職大学院のカリキュラムならびに教育科目を具体的な改善対象として取り上げ、ルーブリック評価等を応用し、コアカリキュラムの到達目標をどのようにシラバスに反映するのか、具体的な手順を示すこととする。
(9) MOT分野の経営系大学院(専門職大学院も含む)が目指す養成人材像ごとに、提案するコアカリキュラムを反映したモデルカリキュラム全体の例示(例えばイノベーション人材育成型MOTや特定産業分野特化型MOTなど)	山口大学の事例だけでなく、MOT協議会加盟校の中からもコアカリキュラムを踏まえたカリキュラム構築の好例を集め、複数のモデルカリキュラムとして提示する。